

保護林 【管轄森林管理署】	シカ被害レベル		変化	高木層	低木層	草本層	表土	スズタケ	調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔案 【5年の場合 の理由】
	H29年度	R4年度									
1 九州中央山地 生物群集保護林 【宮崎北部、熊本、熊本南部】	0、2~4	3 (3~4)	↘	○ or×	×	×	○	△ or× ×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スズタケ-ブナ群団を構成するブナは、概ね健全であった。ただし、尾根上の大径木を中心に枯損が確認され、老齢に加えシカによる下層植生などの食害による影響を受けて衰退が進んでいると推察される。</li> <li>・<b>上福根山と烏帽子岳</b>では平成29年度までスズタケの繁茂もしていたが、令和4年度調査において開花、シカ摂食による枯死や矮小化が確認され、<b>大幅に植被率の低下が見られた。</b></li> <li>・気象害として大雨による斜面崩壊が確認された。</li> <li>・病虫害としてブナハバチによる食害がブナの葉に確認された。</li> <li>・希少種として、哺乳類は██████████ 鳥類は留鳥の██████████の5種、昆虫類は██████████等の6種が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下層植生の回復を図るため、既設植生保護柵の維持・管理を行う。</li> <li>・各鳥獣保護区や国定公園の指定とも重複している保護林については、これらの指定管理機関に対し保護林及びその周辺におけるシカ捕獲の協力依頼等を行うとともに、新たな植生保護柵の設置などを検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病虫害被害が顕著にある】
2 鬼の目山 生物群集保護林 【宮崎北部】	0、3	3	→	○	×	××	○	××	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種のスギ（天然の個体）、アカマツ、ヒメコマツ等の生育は概ね健全であった。</li> <li>・H29年度に保護林内全域にわたって開花・枯死が確認されたスズタケは、シカの食害もあり、植生保護柵設置内を除き、大半の地域で欠落または矮小化している。また、林冠構成種の後継個体となる幼木の欠落が目立つ。</li> <li>・R2年度に設置した植生保護柵内にはスズタケが残存し、枯死稈が目立つものの<b>植被率は高いほか、シロモジ、ブナ等希少種も見られ、種構成に偏りのない植生であった。</b></li> <li>・小規模な山腹斜面崩壊が見られた。</li> <li>・哺乳類、鳥類（クマタカ）、昆虫類の希少種が多数確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下層植生の回復を図るため、地元ボランティア団体との協働により既設植生保護柵の維持・管理を行うとともに、新たな植生保護柵の設置を検討する。</li> <li>・また、国定公園にも指定されていることから、保護林周辺におけるシカ捕獲の実施について協力依頼を行うとともに、保護林周辺で実施している委託捕獲について、時期、効果的な捕獲地点・手法を検討しつつ、捕獲の継続を行う。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病虫害被害が顕著にある】
3 猪八重照葉樹林 生物群集保護林 【宮崎南部】	-	0	→	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象種の照葉樹林を構成する種のアカガシ、スダジイ、イスノキ、ハナガシ、ウラジロガシ、イチイガシの生育は健全であった。</li> <li>・<b>岩壺山の稜線東側及び岩壺山の北西に位置する海一郷林道にて、シカ個体の鳴き声が確認された。</b>また、岩壺山の稜線東側に位置する廣野国有林にて剥皮被害が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護林周辺でシカが確認されたことから、下層植生の被害発生の兆候及びシカ定着動向を把握するため、定期的な巡視等を行い林相の変化に注視する（自動撮影カメラ設置の追加設置を含む）とともに、シカ定着・繁殖動態を踏まえ、シカ捕獲、植生保護柵設置等を検討し行う。</li> <li>・カシノナガキクイムシ被害が蔓延していないか引き続き注視し、必要に応じて対策を検討し行う。</li> </ul>	5年 【その他、短期間で大きな変化が想定される】
4 行者スギ 【福岡】	3	3 (2~3)	→	○	×	××	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種スギ（スギ大径木、『行者スギ』）の生育状況は、健全であった。</li> <li>・保護対象樹種の後継個体は、確認されなかった。</li> <li>・低木層は、植被率が高いプロットと、シカの不嗜好植物であるシキミやイヌガシが優占するのみで林内の見通しは非常に良いプロットが確認された。</li> <li>・草本層は植被率が極めて低く、貧弱で、優占種はシカの不嗜好植物であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下層植生の被害抑制などを目的に、シカ被害対策協定によるシカ捕獲の継続とともに、地元村の理解・協力を得て有害捕獲を進める。</li> <li>・スギ大径木への角擦りによる被害が目立つようになった場合には、単木保護資材などの設置を検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病虫害被害が顕著にある】
5 雁俣山モミ等 【熊本】	1~3	3 (2~3)	→	○	or ○	×	○	×× or △	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種のモミ、ツガ、サワグルミ等の広葉樹は健全であった。</li> <li>・保護対象樹種の後継個体として、モミ、ツガ、サワグルミ等が確認された。</li> <li>・林床はスズタケが繁茂している箇所も見受けられるが、<b>枯死稈が目立つ一方で芽生え個体は確認されず、シカ採食の影響を受けている。</b>雁俣山に近づくほどスズタケ自体確認されないことから、林相の変化に注意が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林被害の抑制などを目的に、地元ボランティア団体との協働により既設植生保護柵の維持・管理及び新たな植生保護柵の設置を検討する。</li> <li>・保護林周辺において、シカ被害対策協定によるシカ捕獲の継続とともに、地元町の理解・協力を得て有害捕獲を進める。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病虫害被害が顕著にある】

保護林 【管轄森林管理署】	シカ被害レベル		変化	高木層	低木層	草本層	表土	スズタケ	調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔案 【5年の場合 の理由】
	H29年度	R4年度									
6 吉無田スギ 【熊本】	2	2	→	○	○	△	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象の旧藩時代植栽の<u>スギ老齢林の生育は健全であった。</u></li> <li>・保護対象樹種の後継個体は、確認されなかった。</li> <li>・低木層はシロダモが優占する他、ヒサカキやアセビなどが生育する程度で、林内の見通しは非常に良かった。</li> <li>・草本層の植被率は、過年度と変化はなかった。平成29年度確認されていたアオキが消失し、シカの不嗜好植物であるシロダモが優占していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護林及びその周辺において、地元町の協力を得てシカの有害捕獲を進める。</li> <li>・スギ大径木への角擦りによる被害が見られる場合には、単木保護資材などの設置を検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】
7 内大臣モミ等 【熊本】	3	3	→	○	×	×	○	××	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種の暖帯上位植生構成種（モミ、ツガ、ケヤキ、ウラジログシ、サワグルミ等）やその他広葉樹は<u>健全であった。</u></li> <li>・低木層はシキミやヤブツバキ、モミが優占するのみで、林内の見通しは非常に良かった。</li> <li>・シカ植生被害により、平成24年度からすでに森林の内部構造・森林が破壊されており、<u>今回も下層植生の回復等は見られなかった。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下層植生被害の抑制などを目的に、シカ被害対策協定によるシカ捕獲の継続とともに、地元町の理解・協力を得て有害捕獲を進める。</li> <li>・ギャップ地など森林の更新が可能な箇所を調査し、植生保護柵の設置を検討する。 *高木層樹冠に覆われた森林下では保護対象樹種の更新は難しいため</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】
8 内大臣ゴイシツバ メシジミ 【熊本】	3	3	→	○	×	×	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象種のゴイシツバメシジミは<u>9個体確認された。</u>食草の着生植物シシンランは、主にシカによる食害を受けない位置に着生しており、また植生保護柵の設置効果により、生育状態は良好であった。</li> <li>・植生保護柵の設置がない場合や急傾斜地の低木層は、ヒサカキ、シキミ、ヤブツバキなどの小径木が優占するものの、林内の見通しは良かった。</li> <li>・草本層の出現種数は多いものの矮小な個体ばかりで、全プロットともに植被率が極めて低く、貧弱である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本種の保護のため、環境省・山都町と共に本種保護増殖事業を進める。</li> <li>・林内の乾燥防止等のため設置している植生保護柵の巡視・点検を継続する。</li> <li>・林内の乾燥可防止、下層植生被害の下層植生被害の抑制などを目的に、シカ被害対策協定によるシカ捕獲の継続とともに、地元町の理解・協力を得て有害捕獲を進める。</li> <li>・必要に応じて、落枝のシシンランの回収・養生・移植や、カシノナガキクイムシによるシシンラン着生宿主木への穿孔アタック防止措置などを検討し行う。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】
9 二上ケヤキ 【宮崎北部】	3	2	↗	○	△	×	○	××	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種のケヤキの生育は健全であった。</li> <li>・後継個体として、ケヤキや林冠構成種のサワグルミが確認された。</li> <li>・<u>植生被害レベルが3から2へ改善したが</u>、いずれも3に近い状態で、<u>低木層のアオキが欠落したまま</u>である。</li> <li>・草本層の植被率は50%と高く、ヤマアイが繁茂している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下層植生被害の抑制などを目的に、地元市の協力を得て有害捕獲を進める。</li> <li>・ギャップ地が発生し、シカの捕獲圧の低下により森林の更新が阻害される状況が見られる場合には、植生保護柵の設置を検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】
10 冷水イチイガシ等 遺伝資源【北薩】	3	3	→	○	×	×	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種の後継個体としてプロット内にてイスノキとタブノキが確認された。なお、保護対象樹種の後継個体（稚樹や実生）が確認されなかった要因は、林冠がうっ閉した照葉樹林の特徴である林床が非常に暗い等と考えられた。</li> <li>・低木層はイスノキやサカキ、ヤブツバキなどの小径木が優占するものの、林内の見通しは良かった。</li> <li>・過年度よりすでにシカの植生被害が確認されており、その影響は急傾斜地で特に見られ、表土流亡にまでは至っていないがそれに近い状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下層植生被害の抑制などを目的に、地元市の協力を得て有害捕獲を進める。また、保護林周辺での委託捕獲の継続実施も検討する。</li> <li>・ギャップ発生地において、保護対象樹種の後継個体の発生・生育がシカの食害により阻害されている状況が確認される場合には、植生保護柵の設置を検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】
11 冷水サツマシダ等 【北薩】	3	3	→	○	×	×	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象種のサツマシダは、平成29年度調査においてプロット43201で25株、プロット43202で11株確認されていたが、今年度はプロット43202では3株と<u>減少していた。</u>本種に対するシカ食害は確認されておらず、林床の照度不足のほか、プロット内を沢が流れていることから、水害による流出や土砂堆積も考えられる。</li> <li>・草本層の植被率は常緑広葉樹林下でもやや高く、ミヤマノコギリシダなどの常緑性のシダ植物が優占しており、林床は湿潤な環境であった。</li> <li>・林冠構成種の後継個体として、イスノキとホンバタブが確認された。</li> <li>・低木層は大型のシダであるナチシダが繁茂し、ツクバネガシやバリバリノキなどの小径木が生育しているが、林内の見通しは良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既設の植生保護柵については定期的な巡視・補修に努める。</li> <li>・植生被害の抑制などを目的に、地元市の協力を得て有害捕獲を進める。また、保護林周辺での委託捕獲の継続実施も検討する。</li> <li>・地元等と連携した植生保護柵の設置、管理等を検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】

保護林 【管轄森林管理署】	シカ被害レベル		変化	高木層	低木層	草本層	表土	スズタケ	調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔案 【5年の場合 の理由】
	H29年度	R4年度									
12 紫尾山ブナ等遺伝 資源 【北薩】	3	3	→	○	×	×	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種のブナ、アカガシ、ウラジロガシ、モミ類の生育は健全であった。</li> <li>・保護対象樹種の後継個体として、モミ、アカガシ、イヌシデが確認された。</li> <li>・新たなシカ被害は確認されないことから、保護林周辺での委託捕獲の効果があらわれ、シカの生息個体数が少ないか高頻度の利用はないと推察される。</li> <li>・下層植生は貧弱で林内の見通しがよく、森林の内部構造が破壊された段階が継続していることから、シカの生息密度が上がれば種構成への変化や森林更新への影響が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植生被害の抑制などを目的に、地元市の協力を得て有害捕獲を進める。また、保護林周辺での委託捕獲の継続実施も検討する。</li> <li>・希少な地域個体群のブナを含めた保護対象種の実生による天然更新促進や下層植生の回復などを目的に、植生保護柵の設置を検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害 虫被害が顕著 にある】
13 ヒノタニシダ 【北薩】	3	3	→	○	×	×	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象種のヒノタニシダは平成29年度調査では全プロット合計で38株確認されたが、今年度は4株しか確認されなかった。気象害は確認されておらず、しかも成熟段階のスギ人工林であり林内照度の著しい低下は考えられないことから、衰退要因は不明。なお、保護林周辺での委託捕獲が行われている。</li> <li>・人工林由来であるため、林冠構成種のスギの後継個体は確認されなかった。</li> <li>・低木層はシカの不嗜好植物であるイスノキ、シロバイ、バリバリノキが優占するのみで、林内の見通しは良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植生被害の抑制などを目的に、地元市の協力を得て有害捕獲を進める。また、保護林周辺での委託捕獲の継続実施も検討する。</li> <li>・ヒノタニシダについてシカによる食害が発生しているか確認するため、ヒノタニシダの生育地に自動撮影カメラを設置して観測する。</li> <li>・地元等と連携した植生保護柵の設置、管理等を検討する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害 虫被害が顕著 にある】

高木層 : ○は健全(枯損・倒伏0~3本以下)、△は病虫害・気象害あり、  
×は倒伏・枯損が3本以上(ただし老齢など自然によるものは除く)

低木層 : ○は健全、△は衰退、×は欠落(2m以下の立木がほとんどなく林内の見通しがよい)または、不嗜好植物が優占(自然状態の種組成とは異なった林分)

草本層 : ○は健全、△は衰退、×は被度が高くてもシカの不嗜好植物が覆う、××は貧弱

表土 : ○は安定、×は流亡

スズタケ : ○は健全、△は矮小化・衰退、×は枯死稈あり、××は本来自生していたと考えられるが全くない

※「健全」とは、森林の階層構造、種組成ともに自然状態である林分とする。

※シカ被害レベル、変化、各層の評価は、全プロットの最頻値を表している。